

平成 22 年度ラムサール条約湿地候補地検討会（第 3 回）

議 事 概 要

日時：平成 22 年 8 月 24 日（火）15:00～17:00

場所：協働ステーション中央 会議室

（東京都中央区日本橋小伝馬町 5-1 十思スクエア 2 階）

出席者

<委員>

呉地 正行	日本雁を保護する会	会長
小林 聡史	釧路公立大学経済学部	教授
鈴木 孝男	東北大学大学院生命科学研究所	助教
辻井 達一	財団法人 北海道環境財団	理事長（座長）
中須賀 常雄	元琉球大学農学部	教授
林 正美	埼玉大学教育学部	教授
細谷 和海	近畿大学農学部	教授

<環境省>

亀澤 玲治	自然環境局野生生物課	課長
堀内 洋	同	課長補佐
中山 直樹	同	登録調査係長
伊崎 実那	同	計画係

<事務局>

佐々木 美貴	日本国際湿地保全連合	事務局長
横井 謙一	同	研究員
小畑 知未	同	事務局員

3. 議題

（1）潜在候補地の選定について

- ・ 希少種の生息地については、地方自治体や地元の自然保護団体等と調整を行ったうえで潜在候補地リストへの掲載および公表の可否を検討する必要がある。
- ・ 条約登録時の湿地の名称は地元自治体等と協議した上で、国際的な重要性をアピールできる名称を検討されたい。
- ・ ダム湖等の人工構造物を含む湿地については、ラムサール条約湿地としてふさわしいか

をこれまでの整備等の背景を踏まえて検討する必要がある。

- 国際基準 6 (1%基準) について、ヒシクイのデータは亜種等を含んだ個体数として表記されていると思われるため、確認されたい。
- 東京湾、有明海、奄美大島、西表島など、細分化されている湿地は整理統合を検討されたい。また、分割すべき湿地についても整理し、検討されたい。
- 有識者から推薦された湿地について、潜在候補地とならなかった湿地についても、推薦があったことを環境省のホームページで公表されたい。

(2) 既登録湿地の周辺水田について

- 既存登録湿地の拡張と一体的に保全すべき周辺水田の範囲については、水鳥や魚類などの生活圏を調査し、検討すべきである。
- 琵琶湖周辺の「魚のゆりかご水田」は、内湖が持っていた機能を代替したものである。優先的に保全を図る必要があるのは琵琶湖の内湖であり、誤解のないよう、表現には留意されたい。

(了)